

いしづち

愛媛労災病院広報紙 第9巻第2号

(通巻第56号)

2011年4月1日発行

発行人：病院長 内藤克輔

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進

病院長就任にあたって

愛媛労災病院・院長 内藤 克 輔

この度、4月1日付で愛媛労災病院の病院長に招かれました内藤です。

愛媛県の風土、気候や気質等の情報に関する理解が全くなく、病院のスタッフの皆さま、患者さんに、ご迷惑をお掛けすると存じますが、ご指導、ご助言を宜しく願います。

私は、金沢大学医学部を昭和46年に卒業し、同時に金沢大学の泌尿器科学講座の黒田教授の門をくぐらせていただきました。

入局後は、泌尿器科領域で最も多い膀胱癌の浸潤および進展に関する研究を始めました。培養細胞を用いた研究を計画しましたが、膀胱癌由来の樹立培養細胞株がなく、先輩より膀胱癌や腎細胞癌の手術材料を提供して戴き、培養細胞株の樹立を2年間続けました。運良く、膀胱癌および腎細胞癌より、それぞれ2株を樹立し、実験を終えることが出来ました。これらの細胞株を用いて行った学位論文が受理され、学位が授与されました。その後、ノーベル賞受賞者を選考するスウェーデンのカロリンスカ研究所に、家族と共に1年間留学させて戴き、広い視野や交流が、いかに臨床における新しい治療法の開発に重要であるかを学びました。帰国後は、実験だけでなく、元来好きであった手術手技の取得、改善さらには抗癌化学療法の確立に時間を費やしました。特に、精巣腫瘍に対する抗癌化学療法、さらに残存

腫瘍に対する後腹膜腔リンパ節廓清術や、浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘除術および尿路変更術等に精力を注ぎました。

平成3年10月に、山口大学医学部の泌尿器科学講座の教授として招かれ、山口大学でも、基礎的研究の楽しさを教室員に教え、論文作成、さらに外国での研究の機会を提供しました。

平成20年3月31日に定年退官し、翌日の4月1日より山口県的美祢市立病院の院長としてお招き戴きました。この美祢市は小生の赴任と同時に美祢市と美東町が合併し、新たな美祢市が誕生し、美祢市には旧美東病院と美祢市立病院の2つの病院を運営することになり、病院管理者として勤務しておりました。しかし、本年になり、山口大学医学部にとって最も重要な関連病院である愛媛労災病院の病院長であられる篠崎名誉教授が引退されるので、是非、後任をと大学病院長より勧められ、今回の人事になりました。

浅学非才ですが、どうぞ宜しくお願いします。



新院長のご挨拶

1

気道圧開放換気を行った重症市中肺炎の1例
集中治療部長 西山芳恵

2

新任のご挨拶

薬剤部長

3

南4病棟紹介 - AKB23 -

3

前立腺肥大症に対するレーザー手術

4

平成23年度 市民公開講座の年間予定表

4

気道圧開放換気を行った重症市中肺炎の1例

集中治療部長 西山 芳 憲

1. 肺保護戦略と気道圧開放換気

(airway pressure release ventilation: APRV)

人工呼吸が肺損傷をきたす機序は以下のようなものである。ガス交換の改善を企図した過剰な換気量と気道内圧による換気の繰り返しにより、虚脱していた肺胞は開くが、正常肺胞は過膨張をきたす。また、つぶれていた肺胞が虚脱、再開通を繰り返すことによっても肺損傷が生じ、隣り合う肺泡がすり合うことでさらに肺損傷が進行する。APRVとは患者の気道に4～5秒程度の間高い陽圧をかけ、1秒以内の短い時間のみこれを開放することを繰り返す人工呼吸モードである。高圧相を高く、長く設定して

平均気道内圧を高くすることにより、虚脱した肺胞を開かさせる肺泡リクルートメント効果が期待でき、圧開放の時間はきわめて短いので、肺胞の虚脱を防ぐことができると考えられる。また、① 従来の人工呼吸モードに比べて平均気道内圧を高く、最高気道内圧を低く設定できること、② 強制換気で換気量を得る方法が気道圧の開放によっていること、③ 長い高圧相の間に肺胞と肺胞をつなぐ側副換気経路が機能することなどにより肺胞の過膨張は生じにくいとされる。さらに、自発呼吸は高圧相において自由に可能であり、自発呼吸を温存できるという利点もある。

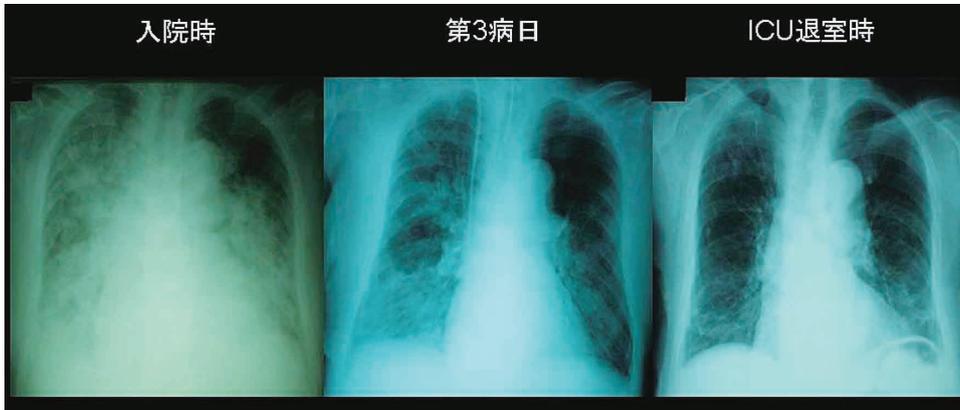


図 1: 胸部写真の推移

入院時は炎症性肺水腫が著明である。第3病日に肺水腫は消失し、肺炎による硬化像が見られる。ICU退室時には胸部写真はほぼ正常となった。

2. 症 例

80歳の女性が市中肺炎から急性呼吸促迫症候群をきたした。間欠的強制換気を開始し、メロペネムとシベスタットナトリウム水和物の投与を行った。PaO₂/FIO₂ (動脈血酸素分圧と吸入酸素濃度の比でP/F比と略す。動脈血酸素化の指標)が87mmHgと低値のため、高圧相を27cmH₂Oで4.2秒、低圧相を0cmH₂Oで0.8秒としたAPRVに変更した。12時間後にP/F比は230mmHgに上昇したが、循環動態悪化のため高圧相を22cmH₂Oに下げた。第2病日に播種性血管内凝固症候群を発症し、アンチトロンピン製剤とトロンボモデュリンを投与した。その後のP/F比は200mmHg前後となった。入室時の喀痰から検出された肺炎球菌はメロペネムに感受性を示した。炎症反応と凝固異常は次第に改善に向かった。第7病日にP/F比300mmHg以上となり、人工呼吸から離脱した。APRVはある程度まで動脈血の酸素化を改善できると考えられるが、循環動態の悪化に注意が必要である。

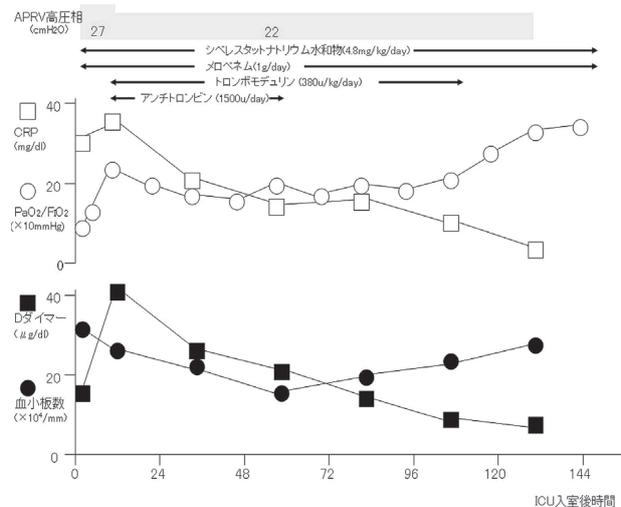


図 2: ICU入室後の経過

動脈血酸素化能が正常化したのは炎症反応と凝固異常が改善してからであった。

新任のご挨拶

薬剤部長 面田 恵

このたび、大阪労災病院から転勤してきました、面田恵（おもだけい）です。どうぞよろしくお願ひします。私のモットーは「常にものごを前向きに考える できない理由を探さない！ どうしたらできるかを考える！」です。医療現場は常に流動的で日々医療は進歩し、患者様が望む医療も変化しております。薬剤師の業務も薬剤部内での調剤業務に加え、入院患者様の服薬相談（薬剤管理指導業務）の他、栄養サポートチーム（NST）、感染制御チーム（ICT）、緩和ケアチームにも積極的に参画しています。

また、患者様が安心して、安全で有効な治療が受けられ、かつ満足して頂けるよう各分野の専門的知識を修得し、認定・専門薬剤師を取得するために日々研鑽しています。現在、日本医療薬学会認定指導薬剤師1名、日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師1名、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門薬剤師1名、日本糖尿病療養指導士3名がいます。

今後とも、患者様の立場に立って、「正確」な医薬品情報と「安心・安全」な医薬品の提供に努め、部員一丸で皆様のご指導、ご支援を頂きながら頑

張っていく所存であります。何卒、ご協力をお願い致します。



南4病棟紹介 - AKB23 -

南4階病棟師長 妻鳥里美

南4病棟は、泌尿器科、内科、整形外科、総合診療科の混合病棟です。病床数44床、医師10名と看護師23名で、一人ひとりの患者様の権利を尊重した医療・看護を目指しています。

泌尿器科は、1泊2日の前立腺生検や約1週間の経尿道的内視鏡手術、全身麻酔による開腹手術が行われており、前立腺炎、腎盂腎炎、シャント不全等の救急患者から癌の化学療法や末期の患者等幅広い患者様を受け入れています。内科、総合診療科は誤嚥性肺炎を中心とする肺炎の患者、糖尿病の教育



入院、血液疾患、癌等の化学療法や、ターミナルの患者様。整形外科は上・下肢の骨折、大腿骨頸部骨折、脊椎の圧迫骨折等の患者様が多く入院されています。このように、南4病棟は急性期と慢性期が混在し、高度な看護が求められることもありますが、学ぶことも多くとてもやりがいがあります。これからもA(相手を思い)K(患者様を思い)B(勉強熱心な)23として、皆で団結して質の高い看護が提供できるよう日々頑張っていきたいと思ひます。

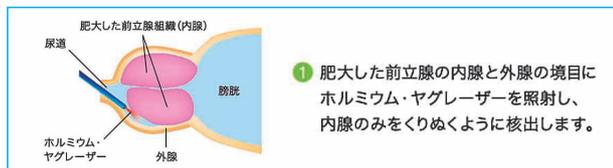
愛媛県初！

前立腺肥大症に対するレーザー手術 (HoLEP) を施行しました (保険適応)

泌尿器科部長 植月 祐次

HoLEP(ホーレップ)とは、前立腺肥大症に対する最新の手術方法で内視鏡を尿道から前立腺に通し、レーザーファイバーと呼ばれる機器を前立腺の内側(内腺)と外側(外腺)の境目に挿入して行います。このレーザーファイバーでホルミウムヤグレーザーという種類のレーザー光を照射し、肥大した内腺(腺腫)を外腺から切り離(核出)します。腺腫を核出し、尿道を広げた後、別の機器で膀胱内へ移動した腺腫を細切・吸引しながら摘出します。このHoLEPによる治療は、従来のTURPと比較して出血や痛みが少ないため、患者さんに負担の少ない手術を可能にしています。また、入院期間も短くより低侵襲な治療法として注目されてお

すが、四国では施行施設が少なくほとんど普及していないのが現状です。私はこれまでに倉敷中央病院、香川大学附属病院で50例以上レーザー手術を執刀しており良好な治療成績を上げています。当院でも2010年8月に愛媛県下で初めてHoLEPを施行し、順調に症例数を増やしております。おしつこのことでお悩みの方、レーザー手術についてご興味のある方は一度泌尿器科までご相談ください。



愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場：愛媛労災病院南館2階・大会議室 時間：15:00～16:00

回数	開催年月日	演題	講師
第91回	2011.04.21(木)	不正出血を認めたら	宮内史久・産婦人科部長
第92回	2011.05.19(木)	腰痛について	森脇伸二郎・整形外科医師
第93回	2011.06.16(木)	50歳以上のすべての男性に「前立腺がんで命を落とさないために」	植月祐次・泌尿器科部長
第94回	2011.07.21(木)	むし歯の予防(実験つき)	千葉晃義・歯科口腔外科部長
第95回	2011.08.18(木)	肩こりについて	西原常宏・リハ科作業療法士
第96回	2011.09.15(木)	糖尿病のくすりのお話	中井一彰・内科部長
第97回	2011.10.20(木)	動脈硬化と心臓病について	佐藤晃・循環器内科部長, 西主任栄養士
第98回	2011.11.17(木)	睡眠障害について	稲見康司・精神科部長
第99回	2011.12.15(木)	画像診断について	重澤俊郎・放射線科部長
第100回	2012.01.19(木)	中高年のためのメタボ対策と足腰強化法	味生俊・勤労者予防医療部長
第101回	2012.02.16(木)	高齢者のための眼瞼下垂と逆さまつげについて	黒住望・形成外科部長
第102回	2012.03.15(木)	家庭でできる救急蘇生	高橋令子・集中治療部看護師長

(注) 1. 演題が未定の講座につきまは、決まり次第ホームページ等でお知らせします。
2. 開催日時及び開催場所につきまは、変更になることがあります。

！ 広報紙編集メンバー 委員長:稲見精神科部長 委員:友澤副院長、医局長(中井内科部長)、看護副部長、師長1名(外来田中)、師長補佐1名(北7和田)、大成薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、西主任栄養士、総務課長、庶務係長、地域医療連携室員